

## 教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	兵庫県立 和田山特別支援学校 職・氏名 校長 岡本 妙子	研究チーム名 ( 教職員協働体制研究チーム )
-----------------	---------------------------------	----------------------------

研究テーマ分類番号 ( 14 )

(1)研究テーマ
多様な障害の生徒を受け入れた新しい教職員協働体制の研究
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>1 知肢併置における学校体制について</p> <p>4月の段階で知的や肢体という名称をできるだけ使わない方向でいくことが検討された。今年度については、肢体不自由部門を北グループ、知的障害部門を南グループという名称にした。教室の配置については、校内指導体制や保護者の思いを考慮し、障害種別の教室配置とした。北グループと南グループという指導体制はとるが、中学部・高等部においてそのグループにとられない学習グループを設定している。</p> <p>2 多様な障害の児童生徒が、共に楽しめる行事の在り方について</p> <p>宿泊を伴う行事は、知的障害と肢体不自由の生徒と一緒に参加する計画をたて、実施した。行事を通して、お互いの障害や個性を知る上でいい機会となった。また、運動会においては、知的障害と肢体不自由の生徒と一緒に競技に参加し、特性に応じて別々のグループで競技をした。幅広い障害や個性に対応しながら、それぞれの児童生徒に対する支援体制を工夫することで、行事を成功させることができた。</p> <p>3 先進校の視察について</p> <p>(1) 京都市立呉竹総合支援学校と京都市立東総合支援学校への学校訪問</p> <p style="margin-left: 20px;">日 時 9月24日(金)</p> <p style="margin-left: 20px;">参加人数 1名</p> <p style="margin-left: 20px;">成果と課題</p> <p style="margin-left: 40px;">教育課程に拘らず、個別の包括プランの作成で把握した個々のニーズからユニットを作っていく方法を学んだ。京都の総合支援学校は、校舎内のトイレ設備が充実しており、大変参考になった。視察で得た観点をもとにして改善点や工夫する点を検討していかなければならないと感じた。</p> <p>(2) 和歌山県立紀伊コスモス支援学校への学校訪問</p> <p style="margin-left: 20px;">日 時 9月22日(水)</p> <p style="margin-left: 20px;">参加人数 1名</p> <p style="margin-left: 20px;">成果と課題</p> <p style="margin-left: 40px;">和歌山県の特別支援学校10校のうち5校が知肢併置校である。和歌山県としての方向性が明確であると感じた。知的障害児と肢体不自由児との混合学級が設置されている点は、参考になった。よい授業をするという学校のコンセプトに沿って、授業準備の時間確保や学校組織の在り方について何年も研究しているとのことであった。個別の指導計画と通知表の評価については、年間2回制で行っていた。視察で得たものを、本校の現状や課題と照らし合わせ、しっかりと改善策を検討する必要があると感じた。</p> <p>4 まとめ</p> <p>京都・和歌山以外にも、東京や千葉、愛知、大阪の現状について調べることで、知肢併置校の今後の在り方を深く検討することができた。今後は、本校のこれまでの歴史や現状の課題を踏まえて、短期・中期・長期の目標や課題解決策を話し合っていきたい。</p>